

平成 26 年度
(第 4 期)
事業報告書

自 2014 年 1 月 1 日
至 2014 年 12 月 31 日

一般財団法人 杉浦地域医療振興財団

I. 事業の概要

1. 主な活動の概況

平成23年9月1日に本財団を設立し、本年度で第4期を終了しました。

本年度は、助成・褒賞、看護介護医療等連携研究会、健康増進セミナー、「介護予防・認知症予防のためのリフレッシュ運動」DVDの配布、及び「認知症医療介護推進フォーラム」を共催することと致しました。本年度からは、新しい研究会として「老年薬学研究会」の実施、「愛知県地域再生・まちづくり研究会」の準備委員会の実施、「地域包括ケアを担う薬剤師の為のインターネット研修」のサイト開設を実施しました。

また、公益財団への認定申請を実施中です。

以下に、本年度の事業の概要について、報告いたします。

(1) 地域医療の振興に関わる活動等に対する助成と褒賞(定款第4条第1項第1号)

前年度に引き続き「杉浦地域医療振興助成」(以下「杉浦助成」という。)、
「杉浦地域医療振興賞」(以下「杉浦賞」という。)の第3回募集・選考・授与式を開催し、また、第2回助成の報告会を行いました。

また、10月より装いを新たにしました「杉浦賞」の募集を開始し、団体推薦9件、自主応募3件の合計12件の応募がありました。(平成27年2月に審査委員会を開催し5件の入賞候補を選定いたしました。)

(2) 地域医療の振興に係る社会実験への助成、参画(定款第4条第1項第2号)

前期に引き続き、地域医療連携モデルの構築と社会実験に向けての「都市型の看護介護医療等連携研究会」を年間10回開催すると共に、研究会の内容を書物にまとめた報告集第2号を出版いたしました。新しく開催した「老年薬学研究会」を2回実施、「地域包括ケアを担う薬剤師の為のインターネット研修」のサイト開設を実施しました。

(3) その他前条の目的を達成するために必要な事業(定款第4条第1項第6号)

A. 東名阪の主要都市において「健康増進セミナー」と題して年間10回のオープンセミナーを企画・開催しました。

B. 認知症予防関連

①「介護予防・認知症予防のためのリフレッシュ運動」DVDの配布

②「認知症医療介護推進フォーラム」の共催

2. 決算の概況

(1) 正味財産増減計算書

効率的運営に注力し、経常収益は 67,156,785 円(前年度 64,703,575 円比+2,453,210 円)でした。

一方、経常費用は 79,563,140 円(前年度 79,044,544 円比+518,596 円)でした。

経常費用の内、事業費は 62,719,594 円(前年度対比△11,406 円)、管理費は 16,843,546 円(前年度対比+530,002 円)といずれも微増減でした。

その内、前年度対比で百万円以上の増減あった費目とその要因は以下の通りです。

事業費では、

費目	増減額	要因
印刷製本費	△2,679,699 円	前期はpinkリボンの手記の発刊があった
広告宣伝費	△1,996,907 円	健康増進セミナーのパンフレット等の費用をスギ薬局に移管
旅費交通費	+1,158,900 円	研究会の増加、セミナー講師の交通費の増加等
内部振替費	+3,152,897 円	pinkリボン基金をスギホールディングスに移管しましたが、資金は残置。その金額をpinkリボン事業から公益事業共通に振り替えたため同額を経常収入の内部振替収益に計上。

以上の結果、当期経常増減額は△12,406,355 円となり前年度比1,934,614 円の増加となりました。

これから、税金を控除した結果、当期一般正味財産増減額は△12,523,042 円となり、これに期首残高 40,037,422 円を加えて一般正味財産期末残高は 27,514,380 円となりました。

指定正味財産については、スギ商事の優先株式の配当が、株式の払戻しとして処理されるため、60,504,000 円減少して、20,923,540,372 円となりました。

以上の結果、正味財産期末残高は前年度対比 73,585,182 円減少し、20,951,054,752 円となりました。

(2) 貸借対照表

現金及び預金等の流動資産は現預金が 12,141,210 円減少したことを主

因に、16,314,036 円となりました。

固定資産では、スギ商事の優先株及び基本財産として受け入れた寄附金を運用した投資有価証券が 60,515,380 円減少して、20,923,616,912 円、その他の固定資産として、健康増進セミナーでの体組成測定の為に購入した InBody 機器が 2,967,668 円、会計ソフトのソフトウェアが 155,100 円、設立時のその他財産を運用した投資有価証券が 10,076,540 円となり、資産合計は 20,953,130,256 円となりました。なお、ピンクリボン基金は、今年度スギホールディングスへ移管しましたので、0 円となっています。

負債については、事務局員の人件費、法人クレジットカード等の未払金 1,950,905 円等が主たるもので 2,075,504 円となりました。

(3) 収支計算書

事業活動収支の内、事業活動収入は基本財産の運用による利息収入、ピンクリボン基金への寄附金収入、一般財産の運用利息及び今年度より開始しました「地域包括ケアを担う薬剤師の為にインターネット研修」の等の合計で 2,964,508 円(予算対比 +2,854,096 円)と大幅超過でした。

超過理由は、予算では、ピンクリボン基金の前年度の募金収入が今年度にずれ込んだことによるものです。

一方、事業活動支出は、助成・褒賞やセミナー等の事業に直接関連する費用である事業費支出が 58,708,197 円(予算対比 Δ 1,767,913 円)、役員報酬、広告宣伝等の管理運営に関する費用である管理費支出が 16,703,780 円(予算対比 +3,828,512 円)の合計 75,411,977 円(予算対比 +2,060,599 円)でした。

その結果、税金等の支払を加味した事業活動の収支差額は Δ 72,564,156 円(予算対比 +747,810 円)となりました。

また、投資活動収支は、スギ商事の優先株に係る配当(会計上はスギ商事のその他資本剰余金からの配当であるので、基本財産の取り崩しとして処理)として 60,504,000 円、ピンクリボン基金の取り崩しによる収入 3,165,502 円、ピンクリボン基金に 2,606,761 円振替えたことから、収支は 61,062,741 円(予算対比 +552,292 円)となりました。

以上の結果、当期収支差額は Δ 11,501,415 円(予算対比 +1,300,102 円)となりましたが、前期からの繰越収支差額が 25,739,947 円ありましたので、今年度の次期繰越収支差額は 14,238,532 円となりました。

II. 事業報告

1. 地域医療振興に係る助成・褒賞事業

(1) 地域医療の振興に関わる活動等に対する助成

[第3回助成事業]

助成の対象	地域医療振興の分野で、優れた活動や研究を行っている個人・団体に対して、今後より有意義な活動や研究の成果を期待して助成金を付与する
募集・選考結果	平成26年1月1日～平成26年2月28日を募集期間とし、学会、特定団体を利用して候補を募集した結果、78件の応募がありました。 その内13の個人・団体に対して総額19,138,278円を助成しました。
授与式等	平成26年7月10日、帝国ホテル東京にて、第3回杉浦地域医療振興助成授与式と第2回助成の成果発表会を実施いたしました。

(2) 地域医療の振興に関わる活動等に対する褒賞

[第3回褒賞事業]

褒賞対象	地域医療振興の分野で、顕著な業績をあげ、継続して活躍中の個人・団体
募集・選考結果	平成26年1月1日～平成26年2月28日を募集期間とし、学会、特定団体を利用して候補を募集した結果、13件の応募がありました。 その内3の個人・団体に対して各300万円、総額900万円を贈呈しました。
授与式等	平成26年7月10日、帝国ホテル東京にて、第3回杉浦地域医療振興賞贈呈式を実施いたしました。

以上の外、助成・褒賞の募集、選考、表彰式、報告書の作成等に要した費用は6,706,421円です。

その内訳は、下記の通りです。

費目	金額	摘要
募集費用	694,761円	募集チラシ、HP等
選考費用	806,317円	謝金、会場費等
贈呈式費用	3,586,758円	会場費、交通費、謝金等
報告集制作費	1,209,600円	
その他	408,985円	消費税等

助成・褒賞の選考委員は下記の通りです。

[第3回選考委員]

(選考委員長を除き五十音順、敬称略)	
氏名	所属
伴 信太郎	名古屋大学大学院医学系研究科 総合診療医学講座 教授
網岡 克雄	金城学院大学薬学部 医療薬学 教授
雨師 みよ子	公益社団法人 大阪府看護協会 訪問看護事業部 部長 社団法人 全国訪問看護事業協会 理事
安藤 明夫	中日新聞社 医療担当編集委員
安東 直紀	京都大学大学院 工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット 特定准教授
井伊 久美子	公益社団法人 日本看護協会専務理事
上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 監事 社団法人 全国訪問看護事業協会 副会長
遠藤 英俊	国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長
葛谷 雅文	名古屋大学大学院医学系研究科 発育・加齢医学講座 地域在宅医療学・老年科学分野 教授
塩川 満	総合病院 聖隷浜松病院(地域医療支援病院) 薬剤部長
白澤 政和	桜美林大学大学院老年学研究科 教授 日本学術会議会員
高瀬 義昌	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 理事長 公益財団法人 日米医学医療交流財団 専務理事
田中 雅子	社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ 教授
山本 陽子	株式会社ケア・ビューティフル 介護福祉士 産業カウンセラー

2. 地域医療連携モデルの構築と社会実験に向けての研究会

(1) 第2期に組成したあるべき地域医療連携モデルの設計、実現プロセスの検討、及び具体的な社会実験の実施までの研究を行う研究会を継続し、今年度は、1月より月1回(但し、4月、12月は休会)、年間10回の頻度で研究会を継続開催いたしました。

本研究会の実施に要した費用の総額は11,564,685円で内訳は下記の通りです。

費目	金額	摘要
会場費	2,569,611円	
会議費等	554,481円	弁当代、資料代等
講師料等	1,350,000円	
交通費	3,365,421円	宿泊費も含む
報告書	3,013,235円	
その他	711,937円	消費税等

第20回からのテーマとゲストスピーカーは下表の通りです。

第20回	役割と居場所のあるまち ～まがって暮らすとたつせがある～	吉田 一平	愛知県長久手市市長
第21回	地域での連携の取り組み ～在宅取りを視野に入れて～	黒岩 卓夫	医療法人社団萌気会 理事長 萌気園浦佐診療所 所長
第22回	大牟田市の認知症ケアと地域ケア ～大牟田式オレンジプランの育ち方～	大谷 るみ子	福岡県高齢者グループホーム協議会 会長
第23回	ミクロのケアマネジメント支援 自立支援型ケアマネジメントとチームケア ～自立支援の観点から適切な課題分析、地域ケア会議を活用して～	東内 京一	埼玉県和光市保健福祉部 部長
第24回	心が動けば、体も動く ～夢のみずうみ村の活動～	藤原 茂	社会福祉法人夢のみずうみ村 理事長 株式会社夢のみずうみ社 代表取締役
第25回	ご近所パワー活用術「気になる人を真ん中に」	鈴木 恵子	ボランティアグループすずの会 代表
第26回	いのちを受けとめる町づくり 人権運動としてのホスピス	二ノ坂 保喜	医療法人にのさかクリニック 院長
第27回	がんばろう薬剤師ーフィジカルアセスメントの薬学への導入と薬術創出の挑戦から見えたもの	高村 徳人	九州保健福祉大学 薬学部薬学科 臨床薬学第二講座 教授
第28回	ふるさとの会の取り組み	滝脇 憲	NPO法人自立支援センターふるさとの会 常務理事

【研究会メンバー】

研究会での役割	氏名(敬称略)	所属・役職
座長	大島 伸一	独立行政法人 国立長寿医療研究センター 総長
副座長	秋山 正子	白十字訪問看護ステーション 代表取締役・統括所長
副座長	小山 剛	社会福祉法人 長岡福祉協会 理事・評議員・執行役員 高齢者総合ケアセンターこぶし園 総合施設長

研究会での役割	氏名(敬称略)	所属・役職
アドバイザー	田中 滋	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 教授
アドバイザー	辻 哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授
アドバイザー	齋藤 訓子	公益社団法人日本看護協会 常任理事
会 員	阿部 智子	訪問看護ステーション けせら 管理者
〃	宇都宮 宏子	在宅ケア移行支援研究所 代表
〃	大澤 光司	株式会社 メディカルグリーン 代表取締役社長
〃	川越 正平	あおぞら診療所 院長
〃	小玉 剛	こだま歯科医院 院長
〃	椎名 美恵子	有限会社 ふれすか 訪問看護テーステーション みけ 代表
〃	高砂 裕子	社団法人 南区医師協会 南区メディカルセンター 訪問看護ステーション 管理者
〃	長尾 和宏	医療法人社団 裕和会 長尾クリニック 理事長
〃	中澤 明子	社会福祉法人 せんねん村 総合施設長
〃	新田 國夫	医療法人社団つくし会 理事長
〃	野中 博	野中医院 院長
〃	長谷川 宜史	社会福祉法人 高浜市社会福祉協議会 事務局長
〃	馬袋 秀男	株式会社ジャパンケアサービスグループ 代表取締役社長兼 CEO
〃	藤田 正之	医療法人 仁医会 常務理事 法人本部長
〃	船木 良真	三つ葉在宅クリニック 理事長
〃	宮路 博	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 居宅本部長
〃	山村 由美子	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園 24時間ケアサービスステーション リーダー

(会員は五十音順)

研究会での役割	氏名	所属・役職
オブザーバー	木全 真理	東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員
	佐野 けさ美	スギメディカル株式会社 介護支援運営部 部長
	杉浦 立尚	笑顔のおうちクリニック 院長
	高瀬 義昌	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 院長
	辻 哲	ヘルスケアパートナーズ株式会社 顧問
	日栄 優	社会福祉法人 京都福祉サービス協会 西京事務所 所長
	久常 節子	前 公益社団法人日本看護協会 会長
	宮島 俊彦	前 厚生労働省 老健局長
	森 貞述	介護相談・地域づくり連絡会 会長(元 高浜市長)
	吉井 靖子	社会福祉法人 長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園 介護・看護部長
	吉江 悟	東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員

(2) 老年薬学研究会を開催します。地域包括ケアの中で、医薬品適正使用

の観点から、チーム医療における協働を進めることを目的として10月、12月に開催いたしました。

本研究会の実施に要した費用の総額は284,795円で内訳は下記の通りです。

費目	金額	摘要
会議費等	47,093円	弁当代、資料代等
講師料等	130,000円	
交通費	96,263円	宿泊費も含む
その他	11,439円	消費税等

テーマ		講師	
第1回	高齢者の特徴から考える薬物療法	秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科加齢医学 東京大学医学部附属病院老年病科 教授
第2回	多剤服薬からの脱却によって 患者のQOLはどの様に向上するか？	高瀬 義昌	医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長
今後の予定			
第3回	平成27年2月4日(水) 18時30分～20時30分	五十嵐 中	東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 特任助教
		金澤 幸江	茨城県薬剤師会・土浦支部
第4回	平成27年4月1日(水) 18時30分～20時30分	水上 勝義	筑波大学大学院人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント科学専攻 教授

【研究会メンバー】

役割	氏名(敬称略)	所属・役職
座長	秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科加齢医学 東京大学医学部附属病院老年病科 教授
副座長	倉田 なおみ	昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 地域医療薬学部門 教授
副座長	鈴木 裕介	名古屋大学地域包括ケアシステム学講座 准教授
	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 准教授
	亀井 浩行	名城大学薬学部 病院薬学研究室 教授
	亀井 美和子	日本大学薬学部 実践薬学系 医療コミュニケーション学研究室 教授
	小島 太郎	東京大学医学部附属病院 老年病科 助教
	佐藤 啓	公益財団法人日本薬剤師研修センター 常務理事
	杉浦 伸一	名古屋大学大学院医学系研究科医学教育研究支援センター 特任研究部門 医療行政学 特任准教授
	鈴木 匡	名古屋市立大学薬学部臨床薬学教育研究センター 教授
	清野 敏一	帝京平成大学 薬学部薬学科 教授
	中西 弘和	同志社女子薬科大学 医療薬学科 臨床薬学教育研究センター 教授
	古田 勝経	国立長寿医療研究センター 臨床研究推進部 高齢者薬物治療研究室長
	水上 勝義	筑波大学大学院人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント科学専攻 教授
	山中 崇	東京大学医学部在宅医療学拠点 特任准教授
(会員は五十音順)		
役割	氏名(敬称略)	所属・役職
オブザーバー	五十嵐 中	東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 特任助教
	高瀬 義昌	医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長
	伴 信太郎	名古屋大学大学院医学系研究科 総合診療医学講座 教授
	間宮 郁子	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部
	丸岡 弘治	医療法人社団協友会 介護老人保健施設 横浜あおぼの里

3. 地域包括ケアを担う薬局薬剤師の為のインターネット研修

地域包括ケアを担う薬剤師を育成し、医師、看護師、その他スタッフとの密接な連携のもとに地域医療における療養環境の充実に貢献することを目的として開設いたします。

本研修の実施に要した費用の総額は 3,772,992 円で内訳は下記の通りです。

費 目	金 額	摘 要
システム構築	1,620,000 円	
講師謝礼等	710,000 円	
撮影編集コスト等	1,133,239 円	
日本薬剤師研修センター 認定代金	92,571 円	
その他	217,182 円	消費税等

4. その他の事業

(1)「健康増進セミナー」の開催

認知症予防等をテーマとしてセミナーを 10 回開催しました。

これに要した費用は 2,539,226 円でした。

(2)「介護予防・認知症予防のためのリフレッシュ運動」DVD の作成

上記 DVD を国立長寿医療研究センターの監修により作成・無料配布しました。健康増進セミナーへの参加者の希望者、大府市様にお渡しいたしました。

Ⅲ. 事務報告

1. 役員

平成 26 年度末現在の役員氏名は下記の通りです。

役名	氏名	就任年月日	略歴
理事長	杉浦 昭子	2013.3.14	スギホールディングス株式会社 代表取締役副社長
理事	井口 昭久	2012. 9. 5	愛知淑徳大学 健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科教授 名古屋大学 名誉教授
	塩川 満	2013.3.14	総合病院 聖隷浜松病院(地域医療支援病院)薬剤部長
	高瀬 義昌	2013.3.14	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 院長 公益財団法人 日米医学医療交流財団 常務理事
	中井 加代子	2012. 9. 5	公益社団法人 愛知県看護協会会長
	鍋島 俊隆	2013.3.14	名古屋大学 名誉教授 名城大学 比較認知科学研究所所長
	野本 慎一	2013.3.14	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系 専攻 教授
	久常 節子	2013.3.14	国際医療福祉大学大学院 副大学院長 元 公益社団法人 日本看護協会 会長
	山村 恵子	2012. 9. 5	愛知学院大学 臨床薬剤学講座教授
	監事	神谷 誠	2013.3.14
平野 晃		2013.3.14	公認会計士 元 新日本有限責任監査法人 シニアパートナー

(注)理事長を除いて五十音順、敬称略

2. 評議員

平成 26 年度末現在の評議員氏名は下記の通りです。

役名	氏名	就任年月日	略歴
評議員会長	杉浦 広一	2011. 9. 1	スギホールディングス株式会社 代表取締役社長
評議員	上野 桂子	2011. 9. 1	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 理事 社団法人 全国訪問看護事業協会 常務理事
	唐澤 祥人	2011. 9. 1	唐澤医院 院長 元 社団法人日本医師会 会長(第17代)
	木村 隆次	2011. 9. 1	有限会社 プロマックス 代表取締役 ハロー薬局 代表
	佐野 けさ美	2011. 9. 1	スギメディカル株式会社 看護事業開発部長 日本在宅看護学会 副理事長
	白澤 政和	2011. 9. 1	桜美林大学大学院老年学研究科 教授 日本学術会議 会員
	鈴木 匡	2012. 3. 14	名古屋市立大学薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授
	水流 聡子	2011. 9. 1	東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 医療社会システム工学寄附講座 特任教授
	豊田 百合子	2012. 3. 14	大阪保健福祉専門学校 副学校長 元 公益社団法人 大阪府看護協会 会長
	橋本 俊明	2011. 9. 1	一般財団法人 サービス付き高齢者向け住宅協会 会長
伴 信太郎	2012. 3. 14	名古屋大学大学院医学系研究科 総合診療医学講座 教授	

(注)評議員会長を除いて五十音順、敬称略

3. 事務局組織

平成 26 年度末現在における財団・事務局組織は以下の通りです。

(1) 職員構成

事務局 長 1 名
企 画 係 1 名
総務・経 理 係 1 名

4. 理事会

平成 26 年度(2014 年)における理事会は次の通り開催しました。

開催年月日	議 事	摘 要
2014 年 3 月 5 日(水) (第 7 回定例理事会)	【決議事項】 「平成 25 年度(第 3 期)事業報告書」 「決算報告書」等の承認	
2014 年 3 月 31 日(月) (臨時理事会)	【決議事項】 第 4 期事業計画及び予算の修正	書面決議
2014 年 4 月 24 日(月) (臨時理事会)	【決議事項】 第 3 回 助成・褒賞の選考結果の承認	書面決議
2014 年 7 月 10 日(木) (第 8 回定例理事会)	【決議事項】 第 1 号議案 平成 26 年度事業計画変更「平成 25 年度(第 3 期)事業報告書」の承認 第 2 号議案:収益事業の届け出	
2014 年 12 月 11 日(木) (第 9 回定例理事会)	【決議事項】 第 1 号議案:公益財団の申請の承認 第 2 号議案:定款の変更に伴い、 理事会運営規程の変更 第 3 号議案:平成 27 年度事業計画の承認	

5. 評議員会

平成 26 年度(2014 年)における評議員会は次の通り開催しました。

開催年月日	議 事	摘 要
2014 年 3 月 5 日(水) (第 4 回定時評議員会)	【決議事項】 「平成 25 年度(第 3 期)事業報告書」 「決算報告書」等の承認	
2014 年 4 月 7 日(月) (臨時評議員会)	【決議事項】 第 4 期事業計画及び予算の修正	書面決議
2014 年 12 月 12 日(金) (臨時評議員会)	【決議事項】 第 1 号議案:公益財団の申請の承認 第 2 号議案:平成 27 年度事業計画の 承認	書面決議

以上

事業報告の附属明細書

平成 26 年度(第 4 期)の事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書について、特に「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していません。

平成 27 年 3 月

一般財団法人杉浦地域医療振興財団